太陽黒点グラフ

熱圏縮小による異常気象発生説

2007年から2010年にかけて銀河宇宙線量の増大が起こりました。
その結果、地球大気層の熱圏が28%も縮小してしまったと考えられるのです。熱圏28%縮小は観測事実です。熱圏には本陽輻射遮蔽と放射冷却抑制の働きがあります。2007年以降現在に至る顕著な異常気象の原因は熱圏の縮小にあると考えられます。即ち、熱圏が顕著に縮小した結果、低緯度地表面表面では太陽輻射増大が勝り温暖化し、高緯度上空では放射冷却増大が勝って寒冷化していると考えられるのです。このため低緯度と高緯度との温度勾配が増大して偏西風の蛇行が生じ、異常気象が多発しているのです。また低緯度海面での太陽輻射増大は海洋を温暖化させ水蒸気蒸発量を増大させ近年の異常豪雨・異常豪雪を生じさせていると考えられるのです。そしてまた高緯度上空の放射冷却増大は成層圏を異常冷却させオゾンホールを生じさせていると考えられるのです。熱圏縮小による異常気象発生説によれば多くの現象は説明が付くのです。従って、IPCC(ユダヤの傀儡組織)が全世界に喧伝し強要する人為起源CO2地球温暖化説とCO2排出権売買が如何にイカサマであるかが明確化するのです。

2007年から今現在にかけて、熱波・干ばつ・豪雨・寒波・豪雪の頻度と規模が増大している。規模は観測以来の記録が塗り替えられ、頻度は全世界同時多発化多様化している。

2013年以降、それまでに頻発した地震活動が原因と考えられる火山噴火が頻発しだしている。

2006年から2012年にかけて、頻繁に地震や火山噴火が発生しました。

2007年から2010年にかけて、銀河宇宙線量の顕著な増大が起こった。

2008年に世界的な飢饉が発生しました。

1991年太陽磁極反転時に急激な銀河宇宙線の侵入があり、その為火山の巨大噴火が起こりました。

1980年と1982年に銀河宇宙線の急増があり、その為に火山が大きな噴火を起しました。

1964年から1974年にかけて、顕著に飢饉が発生しました。

1963年から1965年にかけて頻繁に巨大地震や噴火が発生した。

太陽活動の一次的な衰退、または、銀河宇宙線の一次的な増大を示唆？それを原因とする飢饉？

近未来に大陸内部大飢饉を予見？

黒点ピーク値減少

銀河宇宙線ピーク値増大

2022年頃にかけて銀河宇宙線が急増し、その為、地震・火山噴火・地殻変動・地殻活動が頻発し、地震・火山噴火・地殻変動・地殻活動が原因で食糧生産が大幅に減少し、世界的飢饉が発生する。

2026年頃スーパーフレア発生？

小氷期突入

時折南半球に黒点が現れるがほぼ無黒点

SC19 SC20 SC21 SC22 SC23 SC24 SC25 SC26

1964.7 1976.3 1986.5 1996.5 2009 2014 2022 2026 2035 2048

1960.522 チリ巨大地震Mw9.5

1963.10.13 択捉島沖地震Mw8.3

1964.3.28 アラスカ大地震Mw9.2

1965.2.4 アリューシャン沖地震Mw8.7

1965.8.15 三陸沖地震Mw8.2

1968.5.16 十勝沖地震Mw8.2

1969.8.11 ペルー地震Mw7.6

1970.5.31 ペルー地震Mw7.9

1971.2.9 サンフェルナンド地震Mw6.6

1972.12.23 ニカラグア地震Mw6.2

1973.6.17 ペルー地震Mw8.1

1974.10.3 ペルー地震Mw8.1

1975.4.21 ハワイ島地震Mw7.7

1976.8.16 フィリピン・ミンダナオ島地震Mw8.0

1977.8.19 インドネシア・スンバ島地震Mw8.3

1978.6.12 宮城県沖地震Mw7.7

1979.12.12 コロンビア・エクアドル国境地震Mw8.1

1980.10.10 チリ・ハンボット地震Mw7.5

1981.5.17 ケルマン地震Mw7.3

1982.3.9 ペルー・ペルー沖地震Mw7.5

1983.5.26 日本海中部地震Mw7.7

1984.3.6 ボリビア深発地震Mw7.8

1985.9.19 メキシコ地震Mw8.0

1986.10.5 ソロモン諸島地震Mw8.0

1987.11.30 千島列島地震Mw8.2

1988.12.7 アルメニア地震Mw6.8

1989.10.18 サンフランシスコ地震Mw6.9

1990.7.16 イラン・ルードバール地震Mw7.7

1991.4.22 バングラデシュ地震Mw7.5

1992.12.12 ニカラグア沖地震Mw7.7

1993.7.12 北海道南西沖地震Mw7.8

1994.10.4 千島列島地震Mw8.3

1995.1.17 阪神・淡路大震災M7.3

1996.2.17 インドネシア・スマトラ島地震Mw8.2

1997.10.9 ペルー・ペルー沖地震Mw7.6

1998.11.29 ハワイ島地震Mw7.7

1999.8.17 トルコ・イズミット地震Mw7.6

1999.9.21 台湾・集集地震Mw7.6

2000.11.16 鳥取県西部地震M7.3

2001.6.23 ペルー地震Mw8.4

2002.11.3 アラスカ・デナリ地震Mw7.9

2003.5.26 十勝沖地震M8.0

2004.12.26 スマトラ大地震Mw9.1

2005.3.28 スマトラ島地震M8.6

2006.5.27 インドネシア中部ジャワ地震M6.3

2007.8.15 ペルー・ペルー沖地震Mw8.0

2008.5.12 中国・四川省大地震M7.9

2009.9.30 サモア諸島地震Mw8.1

2010.2.27 チリ・マウレ地震Mw8.8

2011.3.11 東日本大震災M9.0

2012.4.11 スマトラ沖地震Mw8.6

2013.6.23 ボリビア・ペルー国境地震Mw8.3

2014.4.1 チリ・イキケ地震M8.2

2014.8.24 カリフォルニア州ナパ地震M6.0

2015.9.16 チリ・イルヤペル地震Mw8.3

2016.4.16 エクアドル・ムイスネ地震M7.8

2017.9.8 メキシコ・チアパス州沖地震M8.2

2018.2.6 パプアニューギニア地震M7.5

2019.7.6 カリフォルニア州リッジクレスト地震M7.1

2020.10.21 カリブ海プエルトリコ沖地震M6.4

2021.8.14 アラスカ半島沖地震M8.2

2022.1.15 トンガ諸島フンガ・トンガ・フンガ・ハアパイ火山噴火

2023.2.6 トルコ・シリア地震M7.8

2024.1.1 能登半島地震M7.6

2025.7.30 ロシア・カムチャツカ半島沖地震M8.8

2026.3.28 ミャンマー・タイ国境地震M7.7

2027.12.8 ロシア・カムチャツカ半島沖地震M8.0

2028.7.30 アフガニスタン・ヒンドゥークシュ地震M7.8

2029.12.31 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2030.8.15 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2031.6.21 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2032.4.9 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2033.9.12 スマトラ地震M8.5

2034.1.15 千島列島地震M8.3

2035.1.15 千島列島地震M8.3

2036.7.28 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2037.4.11 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2038.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2039.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2040.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2041.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2042.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2043.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2044.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2045.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2046.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2047.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2048.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

1960 1964.7 1970 1976.3 1980 1986.5 1990 1996.5 2000 2009 2010 2014 2020 2022 2026 2030 2035 2040 2048

10.5 11.6 10.2 10.0 12.5 13.0 13.0 13.0

1968～1972 イラン旱魃大飢饉

1968～1972 サヘル旱魃大飢饉

1965～1967 インド旱魃大飢饉

1972～1974 ペルー・チリ・エルニーニョ飢饉

1972～1974 ソビエト・ウクライナ・カザフ・ロシア飢饉

1974～1976 ブラジル・ペルー・ボリビア・ベネズエラ飢饉

1977～1979 ピアフラ飢饉

1991～1993 ソマリア大飢饉

2006～2008 東アフリカ飢饉

2008～2009 ジンバブエ・ケニア・ソマリア・エチオピア・ウガンダ・ルワンダ・ブルンジ・タンザニア・ジンバブエ・ボツワナ・ナミビア・ザンビア・モザンビーク・マラウイ・レソト・スワジランド飢饉

2009 ケニア飢饉

2010.4.14 アイスランド・エイヤフィヤトラヨークル山噴火

2010.12.8 ペルー・ペルー沖地震Mw7.7

2011.6.4 チリ・ハンボット地震Mw7.7

2011.6.21 ペルー・ペルー沖地震Mw7.7

2012.4.11 スマトラ沖地震Mw8.6

2013.9.15 北スマトラ・シナブン山噴火

2014.2.3 エクアドル・トゥングラワラ山噴火

2014.2.22 東ルルチャンカ山噴火

2014.4.1 チリ・イキケ地震M8.2

2014.8.24 カリフォルニア州ナパ地震M6.0

2015.9.16 チリ・イルヤペル地震Mw8.3

2016.4.16 エクアドル・ムイスネ地震M7.8

2017.9.8 メキシコ・チアパス州沖地震M8.2

2018.2.6 パプアニューギニア地震M7.5

2019.7.6 カリフォルニア州リッジクレスト地震M7.1

2020.10.21 カリブ海プエルトリコ沖地震M6.4

2021.8.14 アラスカ半島沖地震M8.2

2022.1.15 トンガ諸島フンガ・トンガ・フンガ・ハアパイ火山噴火

2023.2.6 トルコ・シリア地震M7.8

2024.1.1 能登半島地震M7.6

2025.7.30 ロシア・カムチャツカ半島沖地震M8.8

2026.3.28 ミャンマー・タイ国境地震M7.7

2027.12.8 ロシア・カムチャツカ半島沖地震M8.0

2028.7.30 アフガニスタン・ヒンドゥークシュ地震M7.8

2029.12.31 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2030.8.15 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2031.6.21 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2032.4.9 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2033.9.12 スマトラ地震M8.5

2034.1.15 千島列島地震M8.3

2035.1.15 千島列島地震M8.3

2036.7.28 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2037.4.11 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2038.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2039.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2040.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2041.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2042.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2043.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2044.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2045.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2046.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2047.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

2048.12.7 ペルー・ペルー沖地震M8.0

銀河宇宙線グラフ

ソ連邦を崩壊させウクライナを分離するために起された？

小氷河期生き残り戦略開始

宇宙線による強烈落雷？

宇宙線によるPROM破壊？

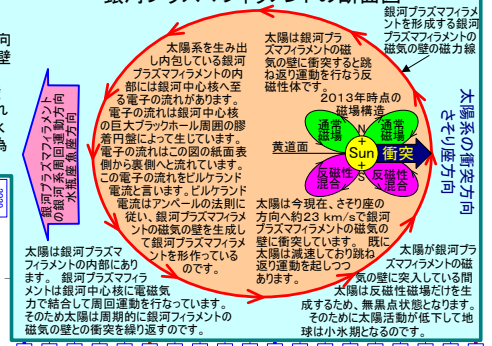
反磁性体太陽の銀河磁場との衝突仮説に基づく小氷期襲来論と文明存続戦略

太陽は銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突して跳ね返り運動を行なう反磁性体です。

NASAの情報などから太陽は今現在さそり座の方向へ約23 km/sで銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突しつつあり、減速しています。

太陽はこの後銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突してバウンドし地球は小氷期となると予測されます。 地球気候は左記に示したようにもう既に小氷期突入期の様相を呈しており、人類文明存続の為の準備を早々に開始しなければならないのです。

プラズマ宇宙論による銀河プラズマフィラメントの断面図



日本文明が小氷河期を生き抜くには、『人類文明存続の大義』を高く掲げる事です。

惑星探査機ボイジャーや太陽圏探査機IBEX、「ひので」などの太陽観測衛星、天体観測の最新情報をプラズマ宇宙論で解析すると、銀河プラズマフィラメントの内部にある太陽が銀河プラズマフィラメントを形作る銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突を始めた為に、

① 2022年頃にかけて宇宙線量が増大し、異常気象や地震、火山の噴火の頻度・規模・激しさは増大し、社会は不安定化します。 同時に、宇宙線が電子機器内のマイコンを動作させているプログラムROMを書き換えマイコンを暴走させ社会パニックを引き起こします。 また地磁気の弱い場所では宇宙線量はICRP(国際放射線防御委員会:ユダヤの傀儡組織)の許容的低線量基準を上り、放射線パニックが予測されます。

② 2026年頃には急激に太陽活動が復活し、スーパーフレアの頻度も発生してCME(コロナ質量放出)の地球への直撃によって、大規模異常気象や巨大噴火巨大地震などの多くの天変地異、マイコンプログラムROMの大規模破壊と電子回路システムの大規模暴走、電力・情報通信ネットワークの域崩的大規模破壊が発生すると予測されます。

③ 2038年、2035年頃から太陽活動は長期の停滞期に入り、スペンマリン効果による大気圧減少とともに宇宙線の拡大によるアルベドの増大によって地球は70年以上続く小氷河期となり、人類の生存環境は劇的に悪化すると予測されます。 しかも、上記状況は1000年以上続く本格的氷河期である可能性もあるのです。

上記想定される生存環境の劇的悪化に際して、70億人以上に達した人類社会の状況は急激に緊迫します。 当然のこと、現状のユダヤ金融グローバリストと傀儡たちに支配コントロールされたグローバル金融体制・グローバル貿易体制は市場原理主義を先鋭化させ、世界を弱肉強食の修羅場に化すでしょう。 その結果、化石燃料や食料などの資源供給国は資源の抱え込みを行い、先進国は発展途上国を切り捨てて防御要塞化するのです。 残された発展途上国、無資源国こそが人口爆発の当事国なのですが、彼らは生存の手段であるエネルギーや食料などの供給を絶たれ、国家社会が崩壊し、世界は数十億人の難民で溢れかえる未曾有の事態となるでしょう。 防御要塞化した資源国や先進国も、結局、溢れ返る数十億人の難民の流入を抑えることなどできずに、国内治安は乱れ、テロが頻発し、国家社会は発展途上国同様に崩壊してしまう。

しかも、化石燃料は枯渇が見えており、石油と天然ガスは先進国需要の100年分すらも3既に無いのです。

このようなまさしく未曾有な人類文明存続の危機へ如何に対処するかが今問われているのです。

まずマイコンプログラムROMの字宙線による書き換え問題への対処法は二通り考えられます。 一つ目の方法として、プログラムROMを内蔵しているマイクロコントローラやプログラムROMチップに対して、超強力な磁場を作るネオジム磁石の強力磁石を近接させる事で、ICの内部のプログラムデータを書き換えてしまう事を相当防ぐ事ができると考えられます。 もっと徹底させるには、鉄ケース基板を収納しているケースを荷電粒子宇宙線が貫通しにくい鉛製を用い、その上でケース全体を包み込むように磁場を作るようにネオジム磁石の磁気シートを貼り付けるのです。 少し複雑なニコ目の対処法として、回路全体や１Ｃチップそのものを3重以上の並列回路とし、回路動作を常に監視して、多数決原理で異なる結果が出た場合は多数派の結果のみを採用し、異なった結果を出した回路をシュールーム目システムから切り離し、プログラムROM内容を多数派データに全変換し、ハードウェアロジックで構成されたチェックプロセスを走らせ回路をシュールーム目動的にチェックさせる変革な電子回路にするのです。

ICRP(国際放射線防御委員会:ユダヤの傀儡組織)が核兵器の有効性を高める為に喧伝する放射線恐怖プロパガンダである詐欺的低線量放射線防御基準をこのままにしておいては銀河宇宙線量の増大によって世界的な大規模放射線パニックが予測される以上、一刻も早く科学的に正しい基準に日本は率先して是正しなければなりません。

エネルギー問題、食糧問題の解決法は、小型4S高速炉とサバイバルプラントの全世界への漂流及び供給です。

即ち、日本人が発明した小型4S高速炉による無尽蔵なエネルギー供給と日本の得意とする海水淡水化プラントや植物工場プラント、木質燃料製造プラント、都市鉱山再生プラントなどのサバイバルプラントを全世界へあまねく漂流に供給する事です。 小型4S高速炉を動かす核燃料について、今現在、核燃料製造時に排出された劣化ウラン、また原子炉燃焼後に排出された核廃棄物、これらが世界中に大量に溜まってしまい処分に困っています。 そしてまた、核兵器削減交渉により確実された核弾頭も処分に困っています。 これらを積極的に利用するのです。 これらを乾式核再生処理する事によって小型4S高速炉を動かす核燃料に蘇らせることが可能です。 長崎法式方式のパワー小型4S高速炉は30年間核燃料の補給無しに、専門家による遠隔管理も無しに、完全自動運転可能な夢の原子炉です。 我々日本人は、乾式核再生処理施設を稼働させ、劣化ウラン等を核廃棄物や破棄核兵器から核燃料を作り出し、夢の原子炉4S高速炉を大量生産して、世界中にあまねく供給することが可能なのです。 また、あらゆる種類のサバイバルプラントを大量生産して供給し、自給自足・自力存続を指導し実現を促す事も可能なのです。 我々日本人は日の能力を知った上で、70年以上、もしかすると1000年以上続く生存環境の悪化に対抗して、人類諸文明を存続させる為に、もろろん先祖伝来の日本文明社会を存続させる為に、持てる能力のすべてを発揮するべきなのです。 何故ならば、先祖伝来の日本文明とは道義文明なのであり、日本はそれを守る為に移民受け入れを断固拒否するからなのです。

小氷河期襲来によって起こる人類社会の激変とは生存環境の異変・悪化を根本原因としています。 現状世界の構造がユダヤ金融グローバリストと傀儡たちによる金融独裁支配体制である事とは、生存環境の異変による人類社会が金融独裁支配者たちの市場原理に頼る社会ダーウィニズムに基づく弱肉強食的修羅場を当然とする狂ったイデオロギーに従うことを意味するのです。 従って小氷河期襲来による生存環境の異変に際して、ユダヤ金融グローバリストと傀儡たちによる金融独裁支配体制をこのままにしてしまっては、人類社会はやっぱり狂ったイデオロギーによって同鼻叫喚な、相互破壊してしまい、文明存続は不可能となるのです。 道義文明の継承者である我々現世代日本人は断じてそうさせてはならないはずなのです。 即ち、日本は「人類文明存続の大義」を高く掲げ、小型4S高速炉とサバイバルプラントを全世界にあまねく漂流に供給し、各々人類文明社会が自尊自立自営する事を教導して、日本自身は覇者となることなく(平先して「栄誉ある孤立主義」を宣言し、人類社会全般が「栄誉ある孤立主義体制」となることによって、相互破壊を回避して文明存続する事が可能なのであり、我々現世代日本人は先祖の仇(かたき)であるユダヤ金融グローバリストと傀儡たちによるどのような妨害をも撥ね退けて、「栄誉ある孤立主義体制」の構築を断固として推進するべきなのです。

近未来に予測される スーパーフレア襲来への対処としては、小型4S高速炉を中心に据えた自給自足循環する数万人規模の新型都市を多数建設し、原子炉や発電機、変電器、配電網、サーバー等の主要なコンピュータ、通信網、等々を上部ネオジム磁石と鉛鋼板で覆った地下シェルター内地下に移送し設置すれば防御可能なのです。

小氷河期襲来という人類文明存続の危機に際して、我々日本人は日本文明存続の使命感に、戦後70年近くも我々日本人を騙し愚弄し続けたユダヤ金融グローバリストと傀儡たちの頑木(くびき)から脱却することが求められ必須条件です。 その上で人類文明社会各々が自尊自立自営する自給自足自立循環社会の分立存続世界戦略、即ち「栄誉ある孤立主義体制」の構築こそが人類文明をして地球マクロ生命体(ガイア)を真に救済するのです。

乾式再処理+4S高速炉⇒小氷河期存続+サバイバルプラント

(1) 4S高速炉は出力1万KW(10MWe)小出力。1万人生存可能。
(2) 動作部品が無く、部品数が少なく、故障の確率はほぼゼロ。
(3) 炉心直径0.85m、高さ1.5m、コンパクト、自己収束超安全。
(4) 核燃料30年間交換不要、充填封印出荷。核拡散不可能。
(5) 負荷追従方式。原子炉運転操作不要。完全自動運行。
(6) 超小型超安全の為、輸送・据付・メンテナンスが容易。
(7) 冷却水遮断緊急停止でも表面放熱空冷自然冷却安全。
(8) 設置面積200m²(14m四方)。あらゆる場所に設置可能。
(9) 大量生産により超価格。全世界に普及可能。
(10) 核廃棄物を乾式再処理して核燃料に変換。
完全核燃料サイクルを実現。
(11) 高放射性核廃棄物を原子炉内部の高速中性子の働きで非放射化。4S高速炉を用いる事で長期貯蔵施設が不要。
(12) 4S高速炉から無尽蔵に発生する高温高圧不活性ガスや高温高圧水蒸気を直接利用して
①水素燃料製造プラント ②海水淡水化プラント
③水処理プラント ④金属精錬プラント ⑤都市鉱山再生プラント
⑥植物工場プラント ⑦畜産工場プラント ⑧養魚工場プラント
⑨藻類養殖燃料油プラント ⑩メタンハイドレートの融解採集

小氷河期襲来に際して、日本は自らの文明存続を果たす為、また他文明の存続も果たす為、数万人規模の自尊自立自営の循環型社会による原則自給自足存続の実践を率先して行なうべきです。

日本は環境難民の襲来や他国からの直接間接侵略を断固拒絶する為の国家戦略として、4S高速炉とサバイバルプラントの人類社会全般への漂流な供給と自尊自立自営理念に基づく自立循環社会による存続のノウハウの積極普及&教導を行い、人類文明社会が相互侵略破壊することなく小氷河期の試練を乗り越えて人類文明社会が総じて存続する事を断固として推進しなければならないのです。 何故ならば、祖先より受け継ぐ日本文明とは道義文明であるからなのです。

Asserted by Birkeland II 2014/04/02